

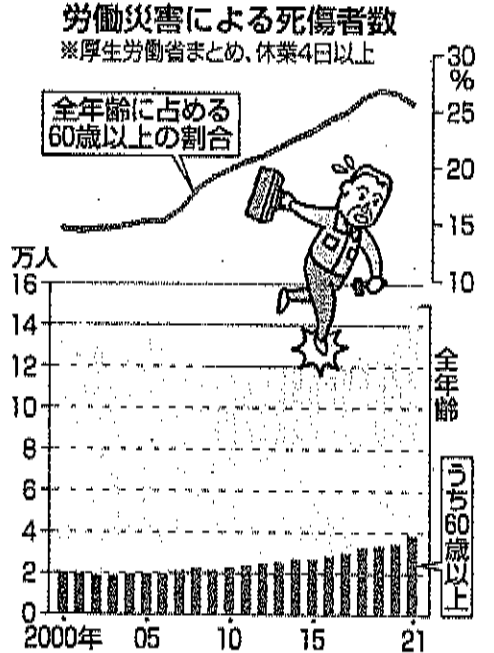
# 高齢者 年金乏しく身を粉にし

## 60歳以上の労災多発

### 解雇恐れ泣き寝入りも

60歳以上の労災が多発している。背景には年金が  
少ないなどの理由で、高齢になっても仕事を続ける  
人の増加がある。解雇を恐れ、泣き寝入りする人も。  
社会の支え手となった高齢者の生活保障や労働環境  
のあり方があらためて問われている。

厚生労働省のまとめで  
は、2021年の労災によ  
る休業4日以上の死傷者の  
前の約1・6倍に増えた。



60代後半は20代に比べ、女  
性は「転倒」が約16倍、男  
性は「墜落・転落」が約4  
倍に上る。

労災認定を受けた60代  
(当時)の女性は、清掃の  
仕事中に階段から転落し、  
複数箇所を骨折する重傷を  
負った。少ない年金を少し  
でも補おうと始めた仕事だ  
った。けがで自由に外出で  
きなくなり、暮らしては暗転  
した。

ただ、労災認定されるの  
は一部に過ぎない。労災ユ  
ニオンによると「企業の『労  
災隠し』で、泣き寝入りし  
ている高齢者も多い」。非  
正規が大半で、体調が悪く  
ても雇用を切られまいと我慢  
する人もいる。同ユニオン  
の池田一慶さんは「高齢

者が最も弱い立場にある」  
と指摘する。

21年の65歳以上の就業者  
は909万人(総務省の労  
働力調査)で、18年連続で  
増加。労働政策研究・研修  
機構が19年に60代に実施し  
た調査では、就業理由とし  
て、76%が「経済上の理由」  
(複数回答)を挙げている。

働く理由に変化も見られ  
る。生活困窮者を支援する  
NPO法人ほっとプラス  
(さいたま市)では「家族  
を養うため」という高齢者  
の相談が増えてきたとい  
う。70、80代の親が40、50

代の息子娘を養うケース  
だ。藤田孝典理事は「1人  
なら年金で何とかなるが、  
就職氷河期世代で非正規の  
子どもを養うには足りない  
という声が目立つ」と話す。  
国民年金の22年度の支給  
額は満額でも月額で約6万  
4800円。燃料費など物

価高の中、経済的な厳しさ  
は増す一方だ。生活保護基  
準以下で生活していても保  
護が認められないケースも  
少なくない。

高齢者が現場で働くには  
より安全な職場環境が欠か  
せない。体の機能低下が命  
の危険に直結しかねないか  
らだ。厚生省は20年に「エ  
イシフレンドリーガイドラ  
イン」を作成。手すりや段  
差解消など具体策を事業者  
に求めている。高齢になれ  
ば通院や治療機会も増える  
ため、仕事と両立するため  
の配慮も要る。

藤田さんは「生活するに  
は年金が少なすぎる。高齢  
者が無理なく貢献できる社  
会を目指すべきだ」と強調  
した。